

サトウキビ奨励品種「農林18号」の春植え栽培に適した培土時期

「農林18号」の春植え栽培では、5月上旬に1回目の培土を行うことで安定した収量を確保

背景・目的

- ・熊毛地域では、一戸当たりの経営の大規模化により管理作業が遅れている
- ・「農林18号」は主力品種「農林8号」と栽培管理の適期が異なる
- ・「農林18号」に適した培土時期により生産の安定化が必要

「農林18号」の特性

- ・低温萌芽性に優れる
- ・茎数が増加する時期が早い
- ・初期生育が旺盛
- ・収量性が高い など

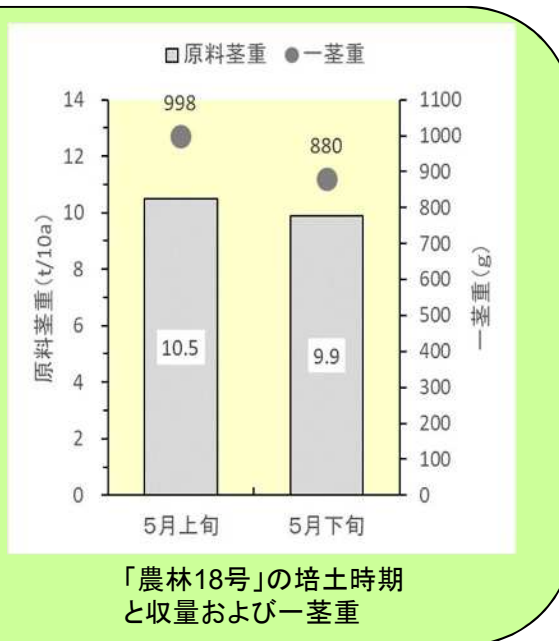
成果の内容

「農林18号」の春植え栽培に適した1回目の培土時期は5月上旬

一茎重が増加し、安定した収量を確保

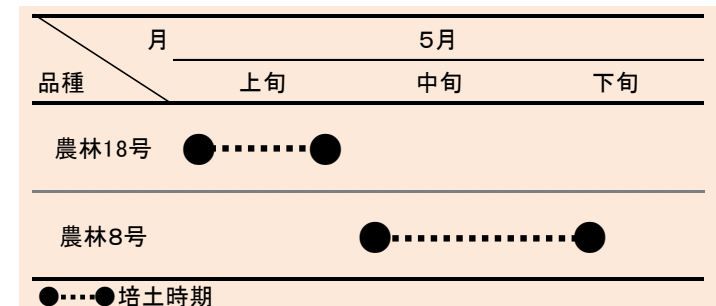
「農林18号」の春植え栽培での1回目培土時期の目安

茎数1,300~1,500本/a
(畝1m当たり茎数16~18本)



導入メリット

- 品種に適した管理作業の分散が可能 (培土は「農林18号」から行い、「農林8号」の順で行う)



培土作業分散のイメージ図

大規模化に対応でき、生産が安定

期待される効果

熊毛地域におけるサトウキビの単収向上及び生産性向上による地域の活性化

普及対象・範囲

熊毛地域サトウキビ栽培農家